



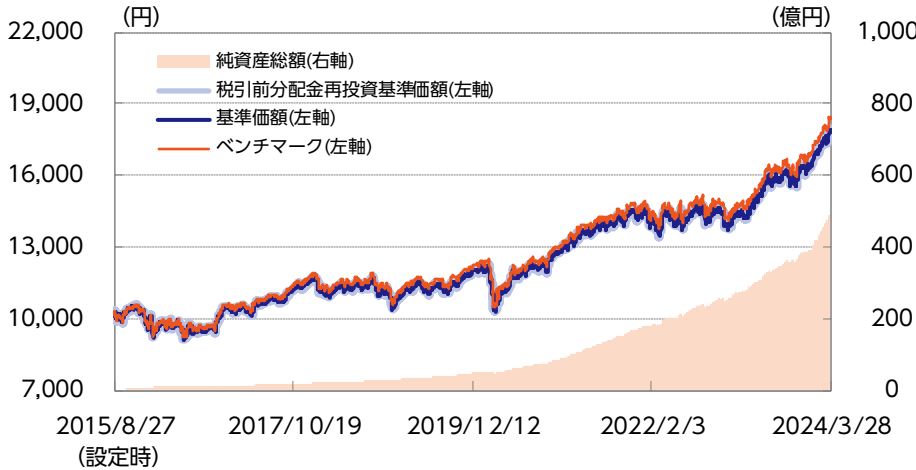
<購入・換金手数料なし> ニッセイ・インデックスバランスファンド (4資産均等型)

追加型投信／内外／資産複合／インデックス型

マンスリーレポート
2024年3月末現在

運用実績

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	17,902円
前月末比	427円
純資産総額	505億円
組入マザー純資産総額 合計 (参考)	13,815億円

分配の推移 (1万口当り、税引前)

期	年月	金額 (円)
第3期	2017年11月	0円
第4期	2018年11月	0円
第5期	2019年11月	0円
第6期	2020年11月	0円
第7期	2021年11月	0円
第8期	2022年11月	0円
第9期	2023年11月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.4%	9.3%	12.6%	22.9%	32.0%	79.0%
ベンチマーク	2.4%	9.3%	12.7%	23.2%	33.3%	84.1%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金 (税引前) を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります (個人受益者の場合)。

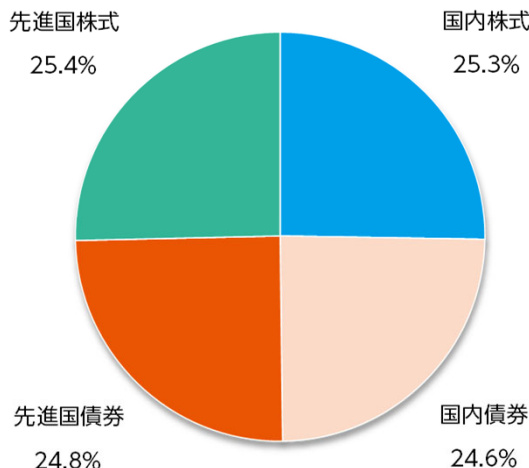
※ファンド騰落率は分配金 (税引前) を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

※ベンチマークは、TOPIX (東証株価指数) (配当込み)、NOMURA-BPI総合、MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)、FTSE世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース) を25%ずつ組合せ合成したもので、設定日前営業日を起点として指数化しています。

※組入マザー純資産総額合計は、ニッセイ国内株式インデックス マザーファンド、ニッセイ国内債券インデックス マザーファンド、ニッセイ外国株式インデックス マザーファンド、ニッセイ外国債券インデックス マザーファンドの純資産総額の合計値です。

資産別組入比率



※対組入マザーファンド評価額比

マザーファンドの状況

国内株式 (ニッセイ国内株式インデックス マザーファンド)

騰落率

	ファンド	ベンチマーク
1ヵ月	4.4%	4.4%
3ヵ月	18.1%	18.1%
6ヵ月	20.5%	20.5%
1年	41.3%	41.3%
3年	52.4%	52.5%
設定来	230.6%	234.4%

※左記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。
 ※ファンド騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。設定来の騰落率はファンドの設定由来のものです。
 ※ベンチマークはTOPIX (配当込み) としています。

組入上位10業種

	業種	比率
1	電気機器	17.4%
2	輸送用機器	9.5%
3	卸売業	7.5%
4	銀行業	7.4%
5	情報・通信業	7.2%
6	化学	5.7%
7	機械	5.6%
8	サービス業	4.5%
9	医薬品	4.2%
10	小売業	4.2%

※対組入株式評価額比

組入上位10銘柄

	銘柄	比率
1	トヨタ自動車	5.3%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	2.4%
3	ソニーグループ	2.3%
4	東京エレクトロン	2.1%
5	三菱商事	1.9%
6	キーエンス	1.8%
7	日立製作所	1.7%
8	三井住友フィナンシャルグループ	1.6%
9	信越化学工業	1.5%
10	三井物産	1.4%

※対組入株式評価額比

当月の市況動向

当月の国内株式市場は上昇しました。

年初からの急ピッチな上昇に伴う高値警戒感や日銀の金融政策変更に対する不透明感から上旬に一時的に弱含む局面であったものの、中旬以降は春闘における賃上げ率が33年ぶりの高水準となりデフレ脱却への期待感が高まったことや、金融政策決定会合での日銀の政策変更の内容が市場想定よりも追加利上げに慎重な姿勢だったことを受けて円安が進行したことなどから、外需株や金融、不動産株などが市場をけん引しました。日経平均株価の月末終値は40,369.44円 (前月末比+1,203.25円) となりました。

東証株価指数 (TOPIX) の月末終値は2,768.62ポイント (前月末比+92.89ポイント)、JPX日経インデックス400の月末終値は25,047.25ポイント (前月末比+880.78ポイント) となりました。

国内債券 (ニッセイ国内債券インデックス マザーファンド)

騰落率

	ファンド	ベンチマーク
1ヵ月	-0.1%	-0.1%
3ヵ月	-0.5%	-0.5%
6ヵ月	0.4%	0.4%
1年	-2.2%	-2.2%
3年	-5.0%	-5.0%
設定来	29.8%	30.1%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。
 ※ファンド騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。設定来の騰落率はファンドの設定日来的ものです。
 ※ベンチマークはNOMUR A-BPI 総合としています。

ポートフォリオ情報

平均格付	※1	AAA
平均修正デュレーション	※2	8.97年
平均最終利回り	※3	0.69%
平均クーポン	※4	0.88%
平均直利	※5	0.85%
銘柄数		36

※1 格付は、R&I、JCR、ムーディーズ、S&Pのうち、上位の格付を採用しております。以下同じです。
 また平均格付とは、マザーファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、当ファンドにかかる格付ではありません。
 ※2「デュレーション」=債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表し、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。
 ※3「最終利回り」=満期までの保有を前提とすると、債券の購入日から償還日までに入ってくる受取利息や償還差損益(額面と購入価額の差)等の合計額が投資元本に対して1年当たりどれくらいになるかを表す指標です。
 ※4「クーポン」=額面金額に対する単年の利息の割合を表します。
 ※5「平均直利」=平均クーポン÷平均時価単価
 (※2～※5の注釈については、以下同じです。)

組入上位10銘柄

	銘柄	債券種別	償還日	クーポン	格付	比率
1	第350回 利付国債(10年)	国債	2028/03/20	0.100%	AAA	7.6%
2	第158回 利付国債(5年)	国債	2028/03/20	0.100%	AAA	7.6%
3	第358回 利付国債(10年)	国債	2030/03/20	0.100%	AAA	7.6%
4	第148回 利付国債(20年)	国債	2034/03/20	1.500%	AAA	7.5%
5	第134回 利付国債(20年)	国債	2032/03/20	1.800%	AAA	7.5%
6	第160回 利付国債(20年)	国債	2037/03/20	0.700%	AAA	6.6%
7	第176回 利付国債(20年)	国債	2041/03/20	0.500%	AAA	5.5%
8	第46回 利付国債(30年)	国債	2045/03/20	1.500%	AAA	5.0%
9	第342回 利付国債(10年)	国債	2026/03/20	0.100%	AAA	4.3%
10	第340回 利付国債(10年)	国債	2025/09/20	0.400%	AAA	4.0%

※対組入債券評価額比

当月の市況動向

前月末を0.71%近辺でスタートした国内長期金利は、中旬に開催された日銀の金融政策決定会合までは、連日の金融政策修正に関する観測報道を受けて金利上昇しました。金融政策決定会合では、事前報道通りマイナス金利解除やイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の撤廃等、金融政策の修正が決定されたものの、今後の国債買入れ額は変わらないこと等がハト派（金融引き締めには慎重な姿勢）と受け止められ、国内長期金利は低下しました。月末にかけては、日銀の追加利上げ観測が金利上昇圧力となる一方、株高を受け年度末の機関投資家のリバランス（資産の再配分）による債券買いが金利低下圧力となり、もみ合いで推移しました。その結果、国内長期金利は前月末比で約0.02%上昇し、0.73%近辺で月末を迎えました。

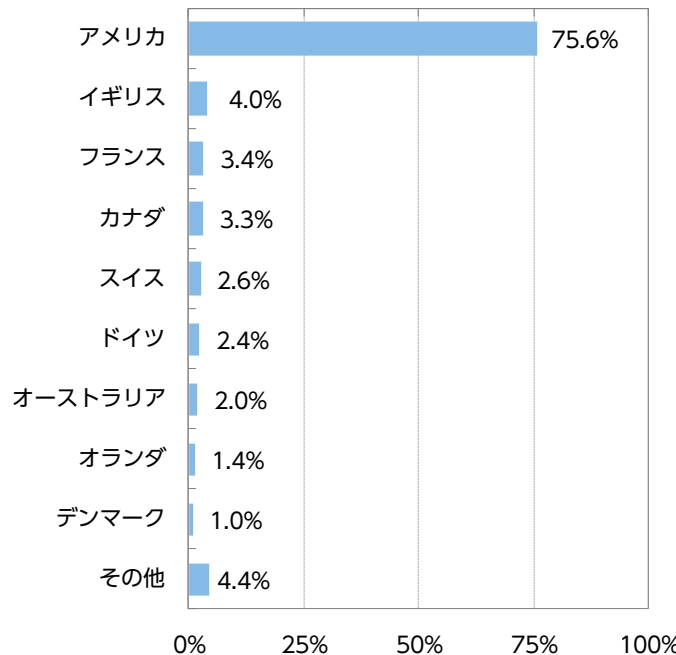
先進国株式 (ニッセイ外国株式インデックス マザーファンド)

騰落率

	ファンド	ベンチマーク
1ヵ月	4.2%	4.1%
3ヵ月	15.9%	15.8%
6ヵ月	22.9%	22.8%
1年	43.7%	43.4%
3年	78.6%	77.6%
設定来	337.7%	324.9%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。
※ファンド騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。設定来の騰落率はファンドの設定以来のものです。
※ベンチマークはMSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース) としています。

国・地域別組入比率



※対組入株式等評価額比
※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

組入上位10銘柄

(銘柄数：1247)

	銘柄	業種	比率
1	マイクロソフト	情報技術	4.9%
2	アップル	情報技術	4.1%
3	エヌビディア	情報技術	3.7%
4	アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	2.8%
5	メタ・プラットフォームズ	コミュニケーション・サービス	1.8%
6	アルファベット (A)	コミュニケーション・サービス	1.5%
7	アルファベット (C)	コミュニケーション・サービス	1.3%
8	イーライリリー・アンド・カンパニー	ヘルスケア	1.0%
9	ブロードコム	情報技術	1.0%
10	J Pモルガン・チェース・アンド・カンパニー	金融	0.9%

※対組入株式等評価額比
※業種はGICS分類 (セクター) によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。

当月の市況動向

当月の世界株式市場は、欧米主要中央銀行のハト派的な見通しや、生成人工知能（AI）開発を支える半導体関連需要への根強い期待などから、上昇しました。

前半は、2月の米サプライマネジメント協会（ISM）製造業景況感指数の低下や欧州中央銀行（ECB）の景気見通し下方修正などから、欧米主要中央銀行の利下げ期待が高まる一方で、一部テクノロジー関連株に利益確定の動きが目立ったこと、2月の米消費者物価指数（CPI）の上昇率が加速したことから利下げに対する慎重な見方もあり、方向感に欠ける展開となりました。

後半は、米エヌビディアの年次開発者会議に注目が集まり、AI向け半導体需要への高い期待が相場を下支えしたことに加え、米連邦公開市場委員会（FOMC）で年内の利下げ見通しが据え置かれたことなどが金融引き締めへの慎重な姿勢と捉えられたこと、スイス国立銀行（中央銀行）の利下げ転換などから欧米の利下げに対する期待が高まり、景気回復を見込んだセクターローテーション（景気の局面ごとに有望な業種別銘柄群に投資対象を切り替えていく戦略）とみられる動きにより押し上げられるかたちとなりました。

先進国債券 (ニッセイ外国債券インデックス マザーファンド)

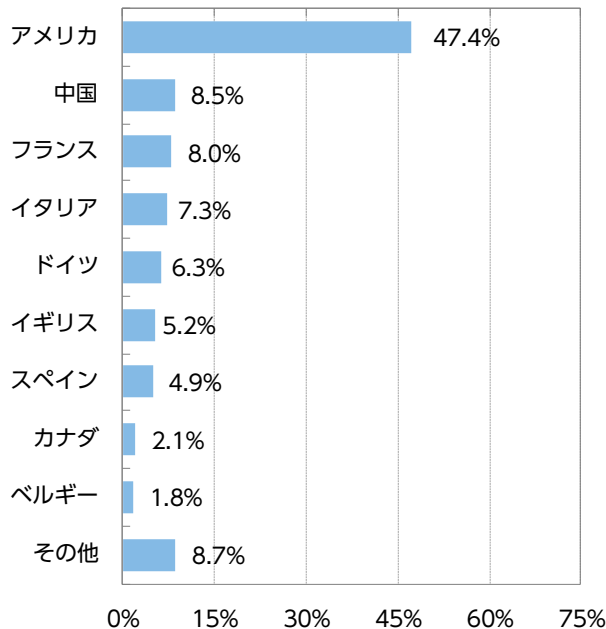
騰落率	ファンド	ベンチマーク
1ヵ月	1.3%	1.3%
3ヵ月	4.4%	4.4%
6ヵ月	8.1%	8.1%
1年	15.0%	15.1%
3年	16.6%	16.8%
設定来	73.0%	75.4%

ポートフォリオ情報		
平均格付	※1	AA
平均修正デュレーション	※2	6.64年
平均最終利回り	※3	3.76%
平均クーポン	※4	2.37%
平均直利	※5	2.49%
銘柄数		831

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。
 ※ファンド騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。設定来の騰落率はファンドの設定由来のものです。
 ※ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース) としています。

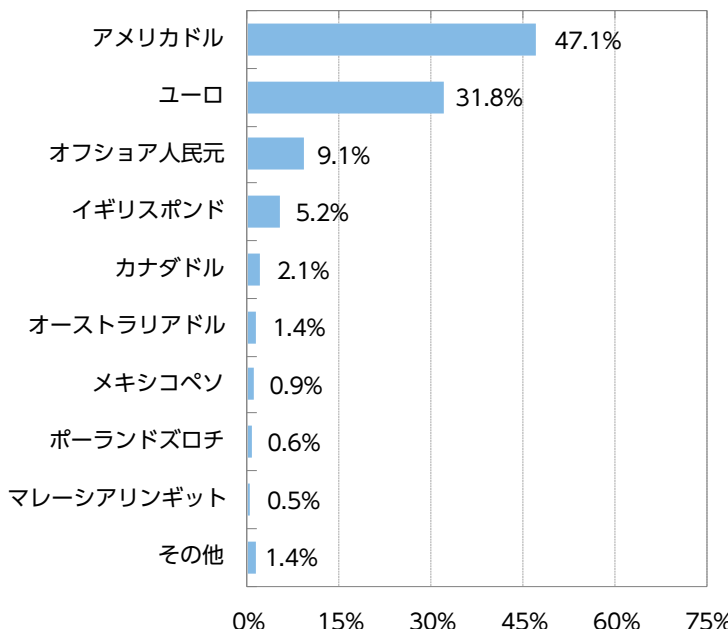
※1 格付は、ムーディーズ、S & Pのうち、上位の格付を採用しております。
 また平均格付とは、マザーファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、当ファンドにかかる格付ではありません。

国・地域別組入比率



※対組入債券評価額比
 ※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

通貨別構成比率



※対純資産総額比

当月の市況動向

当月の米長期金利は前月から小幅に低下しました。上旬はパウエル米連邦準備制度理事会 (F R B) 議長の議会証言で市場の利下げ織り込みに対するけん制が見られなかったことや、2月の米 I S M非製造業景況感指数が市場予想を下振れたことなどを受けて、F R Bの利下げ観測が高まり、金利は低下基調で推移しました。しかし、中旬にかけて2月の米C P Iや米卸売物価指数 (P P I) の伸びが市場予想を上回り、インフレの粘着性を示したため、金利は上昇に転じました。下旬にかけてはF O M Cが開催され、公表された参加者の政策金利見通し (ドットチャート) が上方修正されたものの、パウエルF R B議長の記者会見が金融緩和に前向きな姿勢であったことを受けて、金利は再び低下基調で推移しました。米長期金利は月末時点で4.20%となりました。

当月の欧州 (独) 長期金利は前月から低下しました。上旬は米金利の低下に追随したことや、E C B理事会後に公表された経済予想において物価見通しが下方修正されたことなどから、金利低下が続きました。中旬にかけては米金利の上昇に伴い、欧州金利は上昇基調に転じました。下旬にかけてはS & Pグローバルが公表する3月のユーロ圏のH C O B総合購買担当者景気指数 (P M I) が発表され、欧州においてサービス業が改善傾向であることが示されたものの、製造業が低迷していることなどを受けて、金利は再び低下しました。月末にかけては欧州の複数の国で2月のC P Iが発表されましたが、スペインのコア指数が低下したことを受けて、金利は低下基調で推移しました。欧州 (独) 長期金利は月末時点で2.30%となりました。

ファンドの特色

①国内外の株式・債券に分散投資を行います。

【投資対象とするマザーファンド】

ニッセイ国内株式 インデックスマザーファンド	「TOPIX（東証株価指数）（配当込み）」の動きに連動する投資成果をめざします。
ニッセイ国内債券 インデックスマザーファンド	「NOMURA-BPI総合」の動きに連動する投資成果をめざします。
ニッセイ外国株式 インデックスマザーファンド	「MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）」の動きに連動する投資成果をめざします。
ニッセイ外国債券 インデックスマザーファンド	「FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）」の動きに連動する投資成果をめざします。

②4つの資産への投資割合は均等を基本とします。

※各投資対象資産の指数を均等に25%ずつ組合せた合成ベンチマークの動きに連動する投資成果をめざします。

③購入時および換金時の手数料は無料です。

〈各指数について〉

●TOPIX（東証株価指数）

TOPIX（東証株価指数）とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により株式会社JPX総研が算出する株価指数です。

TOPIX（東証株価指数）の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。当ファンドは、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

●NOMURA-BPI 総合

日本国内で発行される公募債券流通市場全体の動向を的確に表すために、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社によって計算、公表されている投資収益指数であり、その知的財産は同社に帰属します。なお、同社は、当ファンドの運用成果等に関し、一切の責任を負うものではありません。

●MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCIコクサイ・インデックス（配当込み）はMSCI Inc.が公表している指数であり、日本を除く主要先進国の株式により構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。なお、「円換算ベース」とは同指数をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

●FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。なお、「円換算ベース」とは同インデックスをもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。また、ベンチマークの動きに連動することを目標に運用しますので、ベンチマークの動きにより基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

株式投資リスク		株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。
債券投資リスク	金利変動リスク	金利は、景気や経済の状況等の影響を受け変動し、それにともない債券価格も変動します。一般に金利が上昇した場合には、債券の価格が下落します。
	信用リスク	債券の発行体が財政難・経営不振、資金繰り悪化等に陥り、債券の利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる場合（債務不履行）、またはそれが予想される場合、債券の価格が下落することがあります。
為替変動リスク		原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
カントリーリスク		外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。
流動性リスク		市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

❗ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。

これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。
	申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、ロンドンの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金の申込みの受付を行いません。
決算・分配	決算日	11月20日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	無期限（設定日：2015年8月27日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となり、当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」および「つみたて投資枠（特定累積投資勘定）」の対象となります。ただし、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問合せください。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	ありません。
換金時	換金時手数料	ありません。
	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に 年率0.154% (税抜0.14%) 以内の率をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.0011% (税抜0.001%) をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

- ❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ❗ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」は少額上場株式等に関する非課税制度であり、NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たしたファンドを購入するなど、一定の条件に該当する方となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。
- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・確定拠出年金法に基づく運用として購入する加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用され、またNISAおよび外国税額控除の適用対象外です。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00~17:00（土日祝日・年末年始を除く）
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	ホームページ https://www.nam.co.jp/
三菱UFJ信託銀行株式会社	

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
あかつき証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第67号	○	○	○		楽天証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
今村証券株式会社	○		北陸財務局長(金商)第3号	○	○			株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	○		関東財務局長(登金)第633号	○			
岩井コスモ証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○		株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	○		関東財務局長(登金)第10号	○		○	
auカブコム証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○	株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	○		関東財務局長(登金)第10号	○		○	
SMB C日興証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○	株式会社京都銀行	○		近畿財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI証券	○		関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	スルガ銀行株式会社	○		東海財務局長(登金)第8号	○			
岡三証券株式会社(※1,※2)	○		関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○	ソニー銀行株式会社	○		関東財務局長(登金)第578号	○		○	○
光世証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第14号	○				株式会社千葉銀行(※2)	○		関東財務局長(登金)第39号	○		○	
GMOクリック証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第77号	○		○	○	PayPay銀行株式会社	○		関東財務局長(登金)第624号	○		○	
Jトラストグローバル証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第35号	○				株式会社三菱UFJ銀行(※2)	○		関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
大和コネクT証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第3186号	○				足利小山信用金庫	○		関東財務局長(登金)第217号				
東海東京証券株式会社(※3)	○		東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○	大地みらい信用金庫	○		北海道財務局長(登金)第26号				
内藤証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第24号	○											
ニュース証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第138号	○	○										
フィデリティ証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第152号	○	○										
松井証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第164号	○		○									
マネックス証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○								
三木証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第172号	○											

取扱販売会社名	登録金融機関		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	取扱販売会社名	登録金融機関		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
	金融商品取引業者	登録金融機関							金融商品取引業者	登録金融機関					
西尾信用金庫	○		東海財務局長(登金)第58号	○				ニッセイアセットマネジメント株式会社(※4)	○		関東財務局長(金商)第369号	○			

(※1)一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

(※2)インターネットのみのお取扱いとなります。

(※3)一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

(※4)一般社団法人投資信託協会にも加入しております。